

◎令和8年度 東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練

南街・桜が丘地域防災協議会 本部

今年度で13回目となる東大和市社会福祉協議会主催の、「東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練」が、06月20日にハミングホールにて実施されました。

センターは「東大和市地域防災計画」により、大規模災害の発生時、市と社協とが連携して、市民会館(ハミングホール)に設置することになっています。さらに社協は市と、「災害時におけるボランティア活動に関する協定」を締結し、「東大和市災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル」(最新版:R8. 4. 1)を作成して、センターの円滑な設置・運営、災害復興を目指しています。

今年度は、午前はセンター設置運営訓練でスタッフ役に53名、被災者役に14名の参加者があり、午後は「地震が起きたら、あなたは何ができるのか?」と題した講演会で、約100名の参加者で、合計延べ160名を超える方々で訓練が実施されました。以下訓練内容の報告を致します。

訓練が実施された
ハミングホール玄関



【前半(9:00~12:00):災害ボランティアセンターの設置・運営】

1. 災害ボランティアセンター設置図(レイアウト);(小ホール)



2. スタッフ役受付開始、設置準備、あいさつ、流れの説明



3. 被災者からの相談電話受付

「ニーズ(電話)受付票」の書式に従い、被災者の要請内容を把握。
同書式に記入後、スタッフ内で情報を共有化して、現地調査に向かう。

A班 (事例① 内容:ペット)



4. 被災者宅の訪問と調査

A班 (事例① 内容:ペット)



被災者宅到着
集会所ですが、個人宅として
表札が表示されていました。



がれきが散乱しています。



被災者に寄り添った聞き取りと、現状把握を行います。

5. ニーズ調査フォーム入力(訪問終了後センターにて、「キントーン」へ入力)



被災者宅調査後、「ニーズ(電話)受付表」「ニーズ(現地調査)受付表」をもとにデータ入力。

6. 振り返り(グループ)(各班で調査状況のまとめ、情報共有)

A 班 (事例① 内容:ペット)

B 班(事例② 内容:高齢者)



C 班 (事例③ 内容:高齢者、難聴、親子)

D 班(事例④ 内容:高齢者、高層階)



E班 (事例⑤) 内容:障害当事者)



F班(事例⑥) 内容:障害当事者 (車いすユーザー))



G班(事例⑦) 内容:高層階在住の高齢者)



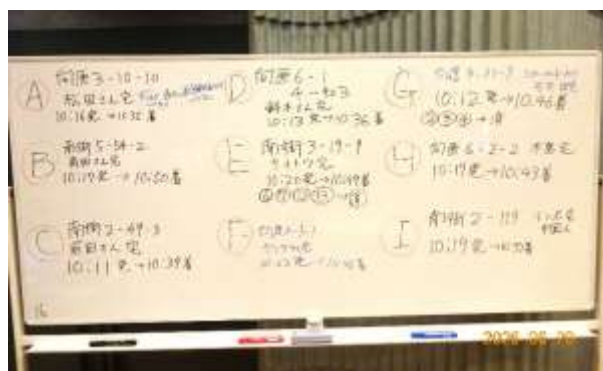
H班(事例⑧) 内容:妊婦)



I班 (事例⑨) 内容:外国人)



総務班(各班の調査状況表示)



7. 振り返り(全体)



特定の班の状況発表。



小林様(本日午後の講演会の講師)の講評。

9事例 一覧

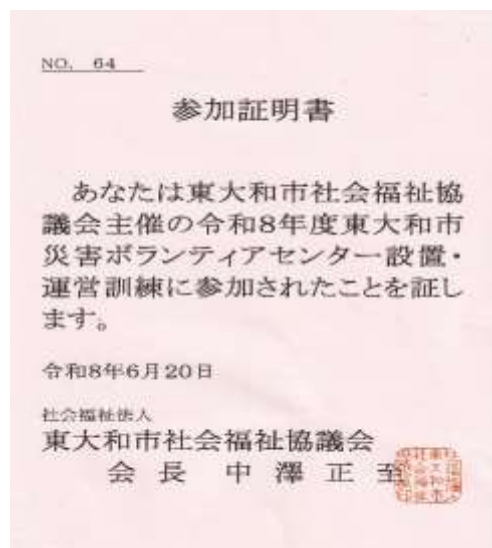
【事例一覧】

①	会場	担当	内容
①	向原中央集会所		・ペット 【物品】段ボール、白紙、ペットボトル片、机、椅子
②	南街地区自治会集会所		・高齢者 【物品】ペットボトル片、段ボール、机、椅子 白紙
③	ほっと支援センター(なんがい)		・難聴(高齢者) 【物品】段ボール、机、椅子、白紙、ペットボトル片
④	鈴木氏自宅		・高層階(高齢者) 【物品】段ボール
⑤	GH しいの木東大和		・障害当事者 【物品】段ボール、本、白紙、ペットボトル片
⑥	ハミングホール(会議室1)		・障害当事者(車いすユーザー) 【物品】段ボール、白紙、ペットボトル片、机、椅子
⑦	第2あとリエトントン		・ひきこもり 【物品】段ボール、白紙、ペットボトル片、机、椅子
⑧	ハミングホール(会議室2)		・妊婦 【物品】段ボール、妊婦セット、白紙、ペットボトル片、机、椅子
⑨	南街二丁目協和三自治会		・外国人 【物品】段ボール、白紙、ペットボトル片、タブレット(翻訳アプリ)

8. 参加賞



お菓子です。



9. センター設置運営訓練 資料

令和8年度東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練

タイムスケジュール

開催日：令和8年6月20日（土）

会 場：ハミングホール
市内各所

- 9：00 スタッフ役受付開始
設置準備・当日の流れ等説明
- 10：00 相談電話受付開始
- 10：20 被災者宅の訪問と調査
- 10：50 ニーズ調査フォーム入力
- 11：00 振り返り（グループ）
- 11：30 振り返り（全体）
- 12：00 終了

令和8年度

東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練資料

開催日：令和8年6月20日（土）

会 場：ハミングホール
市内各所

1 災害ボランティアセンターとは？

- ①地震などで被災し、助けを必要とする人と、ボランティアとして被災地の支援をしたい人をつなぐ機関です
- ②災害時に臨時的に設置されます。
- ③被災地域が少しでも早く元の生活に戻るため、災害による「困りごと」にボランティアとともに対応します。

2 訓練のねらい

- ①まずは知ってください。
- ②「助けられる側」から「助ける側」になることを考えましょう。
- ③日頃からのつながりを大切にしましょう。


3 今回の訓練の被害想定（市防災計画より）

【被害の概要】 ※市防災計画をもとに想定

項目	内容
震源・震度	多摩直下 最大震度6強
発生日時	令和8年6月13日（土）午前5時00分
人的被害	死亡：59人（内要援護者27人）、負傷765人、
建物被害	全壊：774棟
火災被害	出火：3件、焼失：403棟（消火作業終了）
避難者	避難者（1日後）16,689人
ライフライン	停電率9.0%、通信不通率2.3%

【後半(14:00~15:30):講演会】

1. 講演会 次第

令和8年度 東大和市災害ボランティアセンター協議会 主催 

「地震が起きたら、あなたは何ができるのか？」
～実際の被災地で体験・見てきたこと～

日時：令和8年6月20日（土）
14:00～15:30
会場：ハミングホール 大ホール

開 会

1 挨拶 中澤 正至 東大和市社会福祉協議会 会長
和地 仁美 東大和市長

2 講演 小林 和紀氏
(公立高校教諭)

小林和紀
コバヤシカズノリ
公立高校教員
国立市在住
平成3年 日体桜華女子高等学校 勤務
その後、山梨県立身延高校、大原専門学校、川崎市立川崎高等学校
現在、川崎市立橋高等学校に勤務
ボランティア経験は、阪神大震災、東日本大震災、鬼怒川土砂災害、能登震災など
さまざまなボランティアに参加
定年後は、東北に移住すると決めています。

3 質疑応答


閉 会

NO. 84

参加証明書

あなたは東大和市社会福祉協議会主催の令和8年度東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練に係る講演会に参加されたことを証します。

令和8年6月20日

社会福祉法人
東大和市社会福祉協議会
会長 中澤 正至 

2. 参加賞

3. 講演会資料(ボランティア体験 活動報告)

雄飛

〇〇高校 学年通信 No.3
(通算33号)
平成24年4月27日

ボランティア体験 活動報告

3月24日から3月27日まで、本校生徒10名が、社会福祉協議会の呼びかけに応じて、東日本大震災復興支援ボランティア活動に参加してきました。現地では復興支援ボランティア体験、現地の高校生との交流などを行いました。

A
私は今回岩手県のボランティアに参加させて頂きました。実際の被害の状況を自分の目で見て正直驚き、胸がいっぱいになりました。一生懸命笑顔を見せながら生きているという話を聞き、メディアでは復興していると聞いていましたが、まだまだ出ていないというのが現状という事を今回知ることが出来ました。

今回4日間という短い間で小さな事だけれど少しでも力になれば嬉しいです。又、この経験、情報をより多くの人に伝えていきたいです。

B
3月24日～27日までの3日間、私達は東日本大震災が起こった東北の岩手県の釜石市で高校生復興支援隊としてボランティアをしました。

今まで、テレビニュースやインターネットでしか情報を得ることができず、ボランティアも行く機会がなく、募金しかできませんでした。今回、実際に現地に行って感じたのは、未だ全く復興しておらず当日のままのようだという事です。また、機会があれば、自分の足を運んで自分の目で現状を見て少しでも東北の力になれるよう、ボランティアに参加したいと思いました。

C
私達は、鶴住居幼稚園で清掃活動を行わせて頂いた。到着して目に飛び込んできたのは砂や泥にまみれた半壊状態の幼稚園だった。私は津波の恐ろしさに衝撃を受け、体が震えた。清掃活動を行っている中、沢山の楽器やおもちゃなどが出てきた。遠くからみると「ゴミ」にしか見えなけれど、園児たちにとっては「宝物」なのだ。この宝物が少しでも早く持ち主に戻ってほしいと思う。

D
実際に自分の目で瓦礫や被害にあった市街地を見て、現実とは思えない位の衝撃を受けた。瓦礫の中には生活用品も混ざっていて、ここで生活していたということが想像出来ない程何も無いのを見て、言葉が出ず胸がいっぱいになった。今回の経験で思ったこと感じたことを忘れずに、自分の目で見た被災地の状況を小さな形でも多くの人に伝えていきたいと思った。

E
私は今回岩手県釜石にボランティアとして行かせて頂いて、さまざまな体験をした。釜石の被災の状況を見学させて頂き、復興には時間がとてもかかる事を知り、また津波の恐ろしさを目の当たりにした。活動では、被災の状況をこの目でしっかりと見たので、ボランティアに行く前よりもさらに、気持ちを込めて協力をしながら行う事が出来た。現地の高校生との交流会では、一緒にゲームをしたり、話し合いではグループごとに分かれて、震災から自分たちが行ってきた事と、高校生はこれから何が出来るのかを発表し、意見を出し合った。皆の意見を聞いて、人と人のつながりが大切だと改めて実感した。これからも、東北のために募金活動や節電を心掛けていきたいと思った。ボランティアに行かせてもらった事を誇りに思っている。

F
今回ボランティアに行かせて頂くにあたって正直とても不安であったが、平伝わせて頂く事に誇りを持って頑張ろうと思った。岩手県釜石市へ行き、実際に釜石市を見た時は言葉を失った。震災から1年経った今、私は少しでも復興が進んでいるのだと思っていた。だが、現実とは違って未だにガレキの山があちこちにあたり、重機も数台しか無かった。私は現実を目の当たりにした時とても悲しくなったと同時に、なぜまだ少しも復興していないのか不思議な気持ちになった。この現実を少しでも多くの人に知ってもらえる事、また何か動きが見られれば良いと思う。私達は今ブレハブで学校生活を送っていて、不自由な事もある。だが、東北の高校生は私達よりも大変な思いをしているのに、とても前向きで明るく本当に尊敬した。同じ高校生として、今を一生懸命に頑張ろうと強く思った。そして、私達にはまだできる事が沢山ある。テレビの前で何もできずにただ見ているだけの自分と、今の自分は変わった気がする。少しでも多くの人に私が見てきた現実を伝えられたら良いと思う。今回このような貴重な体験ができ、本当に良かった。少しでも東北の方々の力になれば嬉しい。小さな事でもいいからこれからも東北の事を考えながら生活していこうと思う。

裏面へ

⑨

今回、東北ボランティアに参加させて頂いて、思っていた以上に岩手県の被害はひどく、今の自分の生活とは比べ物にならないほどであった。震災から1年。がれきの撤去がほぼ終わっているだけで、津波で流されてしまった家の土台があるだけで、辺りは家がまったくなかった。それに、海から離れている場所なのに船があった場所もあった。復興を少しずつしているテレビでは報道していたけれど、がれきを撤去しただけで、後は何も変わっていなかった岩手県の姿を見て、悲しかった。1年たっても何も変わっていないような気がした。

今回の体験を通じて、被災地に対する関心が薄れていた自分に気がついた。同じ国なのに、このように辛い思いをしている人達の気持ちや関心がなくなっていた自分が情けなかった。だから私はもっとこの岩手県の現状を知ってもらい、今自分が出来る事を少しでも行い、この現状を絶対忘れたくないと思った。

⑩

今回ボランティアに参加し感じたことは、現地の高校生との交流会の時、現地の高校生は皆さん笑顔で明るく、まるで何もないように思えた。グループにわかれて出た課題について考える時間があったのだが、私はその時、いかに自分が無知で何も考えていなかったかを思い知らされた。そして現地の高校生は復興に向け前を向き頑張っているのを目の当たりにし、衝撃を受けた。

今回ボランティアを通して、まず私たちに出来ることは今回の体験や、見て聞いて感じたものを伝えるということ。私は「これから私たちにできること」という課題がでた時、募金くらいしか思い浮かばなかった。しかしその後、同じ川崎市の高校生や今回ボランティアにつれていってくださった社協の方が「伝える義務」があるとおっしゃっており、これからも出来ることは行っていきたいと思った。

ここには書ききれないほどの貴重な体験や、お話を聞かせて頂いた。どんなに小さなことでも必ず復興につながる。これからも私たちに出来ることを行っていきたい。

⑪

今回のボランティアを通し、2泊4日と短い期間だったがたくさんの交流ができ、その交流で人と人との繋がりが大事だと知った。共に支え合い、助け合い、励まし合い、同じ環境にいるからこそ分かることがある。しかし、同じ地震のあった地域でも、場所によっては被害の大きさが違う為、友人や家族に相談しにくいという現状。そのような時こそ、遠くにいる私達でも出来ることがあるのだと思う。少しでも、心のケアが出来れば・・・

3. 11から1年が過ぎた今も東北の人達は頑張っています。

⑫

今回、復興支援ボランティアに参加した理由は、自分が少しでも復興の役に立ちたいという思いから、自分には今何が出来るかを考えた時、このボランティアを先生から紹介されました。募金などでしか支援出来ていなかった時、実際に被災地に行ってボランティアを行うことが出来るということで、今の自分にとっても合っていると思いました。

今回、ボランティアに参加した中で、とても印象に残っている言葉が二つあります。それは、現地の高校生交流した時に、現地の高校生が言っていた言葉です。一つ目は、テレビや新聞などで「少しずつ復興は始まっている。」と報道されているけれど、実際にはガレキが撤去されただけで、「復興は始まっていない。」という言葉です。実際に被災地を見た時、ガレキが撤去され、何もなくなった場所ばかりでした。ガレキが一カ所に集められて、山積みになっていたり、まだガレキが残ってそのままの状態であったり、現地の高校生が言っていた通りでした。まだ復興は始まっていないというのが実際に見ても分かりました。私は被災した場所は少しは平地になってきれいになっているのかと思っていましたが、まだ支援が必要な状態なのだと思います。二つ目は、「来てくれるだけでも嬉しい。」という言葉です。私はその言葉を聞いて、来てよかったと思いました。今回のボランティアのように、少しの形でしか復興に携わることが出来ないけれど、自分が来たことによって、少しでもそのような気持ちを持って頂けたら嬉しいと思いました。

今回、被災地の現状を知る事が出来たし、まだ復興は始まってないと聞いて、これから出来ることは募金くらいしかないけれど、自分が少しでも役に立っているのなら積極的に行きたいと思いました。そして、また被災地へボランティアとして参加したいと思いました。

4. 講演会のチラシ

講演会

地震

が起きたら、あなたは何ができるのか？
～実際の被災地で体験・見てきたこと～


日時：令和8年6月20日(土) 無料!!
午後2時から午後3時45分まで
※受付は午後1時30分から

場所：東大和市民会館ハミングホール(大ホール)
講師：小林和紀氏(公立高校教員)
対象：災害ボランティアや防災について興味・関心がある方


定員：300名(申込順) ※手話通訳あり

社会福祉協議会は、大規模な災害が発生した場合、市との協定に基づき「災害ボランティアセンター」を設置し、復興の支援を行います。被災地でのボランティア活動や役割等について被災現場を知る講師からお話を伺います。ぜひご参加ください。


東日本大震災石巻市の様子




鉾巻半島地震の様子



<問合せ・申込先> 締切: 6/12(金)
東大和ボランティア・市民活動センター
TEL:042-564-0035 FAX:042-564-3680





主催：東大和市災害ボランティアセンター協議会
東大和市社会福祉協議会

【訓練全体資料(進行表)】

令和8年度東大和市災害ボランティアセンター			
9:00	受付	掲示物、物品、受付場所等を設置。	二
9:15	災害VC設置	あいさつ、流れの確認、自己紹介等。	
10:00	相談受付	-電話で被災者からの相談受付・訪問先を地図等で確認。 -4~5人1組に分かれ、各組1件の相談対応。 ※訪問調査を予定に行うため、電話で聞き取りをできる部分は聞き取りを行う。	小ホール
10:20	訪問調査	各組、1ケース現地訪問し、調査する。 ※訪問先では担当の人が主体的に対応する。 ※被災者役の方がハミングホールに来るのが難しい場合は、先にグループの振り廻りを行う。	各地
10:50	ニーズ調査フォーム入力	訪問終了後、「ニーズ受付票」(様式あり)を作成。また、Kitaseへの入力を行う	
11:00	振り廻り	各グループで振り廻りを行う。	小ホール
11:30	全体振り廻り	全体で振り廻りを行う。	
12:00	休憩・片付け	お昼休憩、片付け(AM職員中心)	告白
12:30	終了	AM職員終了	
13:00	講演会準備	必要に応じて講演会の準備を行う。	
13:30	講演会受付開始	講演会の受付を始める。	
14:00	講演会	講演会開講。	大ホール
15:45	講演会終了	参加者の誘導を行う。	職員十他 社協職員
16:00	終了		

スタッフ役(被災者支援班)

-設置・運営訓練全体進行表			
9:00	セッティング	-各会場に集合 -会場のセッティングを行う。	二
9:15			
10:00	電話相談	-被災者としてVCへ電話し、シナリオに従って相談を行う。 -13年度年次スタッフへ伝え、訪問を受ける約束をする。	各地
10:20	相談	-スタッフの訪問を受ける。 ※ハミングホールに行くのが難しい場合は、相談後グループの振り廻りを行う。	
10:50		※お時間がある場合はハミングホールに見学に来ていただくことも可能です。	
11:00	振り廻り	各グループで振り廻りを行う。	小ホール
11:30	全体振り廻り	全体で振り廻りを行う。	
12:00		終了	
12:30			
13:00			
13:30			
14:00			
15:45			
16:00			

被災者役

以上